

## W/G 第1号スタート

：熱心な討議がつづく藤田グループ



第3回会合(H7.09.07)

(ホート®を背にした左端から右まわりで)  
藤田慶喜 主査(関西新技術研究所)  
安達勝雄 副主査(日本フロンタ協会)  
吉川俊郎(鶴見曹達研究所)  
(事務局) 平山達(代表理事代行)  
稲村 卓(理化学研究所安全管理室)  
荒井康全(昭和電工生産技術部)  
-----  
(以上各氏の外、下記4氏がメンバー)  
尾島正男(旭硝子加工硝子事業本部)  
末次雅夫(グレース・シヤハソン)  
服部達夫(東京ガス技術企画部)  
(事務局世話人)山内尚隆(理事)

第1回セミナー開催を機に、準備中であったW/G(ワーキング・グループの略)が7月からスタートし、月2回の会合が港区商工会館(東京産業貿易会館6F、浜松町)の会議室にて行われ活発な討議が進められている。

このW/Gは3月に開かれた上記セミナー“環境エネルギー政策—様々な考え方”(川口順子サントリー常務)、「大気環境—自然要因と人間環境」(田中郁三学位授与機構長・東京工大元学長)の折の講師の解説や会員の発言・意見《すなわち広い環境の立場からみると国、民族、地域、個人などによって考え方が異なること、またいろいろな要因、とくに自然か人為かにより功罪があること、さらに歴史観の上に立って人間のあり方を省みるとき、私たちは21世紀に向けての重要な課題をかかえていること》などによって大きな刺激を受けた。

実際、この1995年をとってみても1月17日の阪神大震災、3月20日のサリン事件以下の想像を絶する人災、バブル崩壊、社会混迷等々には未来のあり方を暗示する教訓がひそんでいる。

さてこの第1号の“国際環境協力問題やこれに接点をもつ課題”に取り組むW/Gは、メンバーの各自が特に基本的問題と考えているキーテーマを全員提言し、これを討議し、重要課題の進言を行っている。カード方式でユニークなまとめ方を採用しているのも特色であろう。

続くW/Gへの参考にもなり、新しい検討課題も生れることが期待される。

＝続くW/Gの逐次発足のために、会員の皆様の直接間接のご協力をお願い致します＝

本会としてはいよいよW/Gの形成に精力を注ぎたいと思っています。具体的にはアンケートにて参加意向の多い上位テーマ(2面参照)を中心に、個別の連絡や予備集会によるすり合せ等と呼び掛け、年内に数グループの結成をと考えております。各人のご事情の違いもあり、連絡や調整等をはじめ個々には不都合な面も多々出てまいると存じますが、その対処などの工夫を含めてのご協力を宜しくお願い致します。

本活動の積み重ねは、社会にも個々人にも大きな意義と成果になると信じております。広く会員各位のご支持ご支援もお願い致します。